



富士橋

かけはし

第174号
2021年6・7月号

発行：峡南教育事務所
地域教育支援スタッフ

令和三年度 峡南地域教育推進連絡協議会 (地推協) 理事会・総会開催

南巨摩郡富士川町鵜沢771-2

TEL:0556-22-8154

FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。

[http://
www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-
mk/index.html](http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html)

親柱 (ふじはし)



ご存じですか？

富士橋の構造が途中で違うのは(写真)、豪雨で流された部分を修繕したからです。

目次:

地推協理事会・総会	1
教育フォーラム開催	
人権講演会案内	1
ことぶき勤学院便り	2
増穂小 麦刈り	2
甲府空襲体験談	3
ことぶき勤学院生	
入倉武津子さん	
身延清稜小、栄小で	4
砂防移動教室開催	

峡南地域は川も山もある自然の美しい場所ですが、反面いつ自然災害が起きるかわからない怖さもあります。地推協主催の地域教育フォーラムや学校での砂防移動教室や講演会など、災害に備える行事が行われました。

地推協とは

子どもの育成に関わる地域団体の人たちから構成され、教育には欠かすことのできない家庭・学校・地域の連携の中で地域の役割を果たすことを目的としています。

令和三年度理事会・総会にて

昨年度は感染症拡大防止のため書面開催でしたが、今年度は細心の注意を払い

令和3年度地推協正副会長(敬称略)

- 会長 佐野 貴宣 (身延町教育委員代表)
- 副会長 入月 一巳 (南部町教育長)
- 佐野 保仁 (南部町教育委員代表)
- 小林 智 (峡南高校校長)
- 小林 昭子 (鵜沢中学校PTA代表)



葉での講演
↑ 迫力ある言

総会后引き続き続いて教育フォーラムが開催されました。峡南地域での過去の災害と被害、これから必ず起こると言われている南海トラフ巨大地震への心構えなどを学びました。林先生は記者だった経験から、最も効果的な講演にするために、何度も内容を作り直し当日を迎えました。熱海の土砂災害が起こって間もないこともあり、参加者は熱のこもった講演に聴き入りました。

内容は次号のかけはしでお伝えします。

峡南教育事務所よいお知らせ

人権講演会を開催します

8月25日(水) 14:30~16:10

身延町総合文化会館ホール

「愛は国境を越えて」

講師 作家 江宮 隆之氏

申込締切：8月18日(水)

今号の1枚は

村松章史 地域学力向上推進幹です



バランス感覚を大切にしています！

鵜沢歩道橋にて
ヨガのバランス
「木のポーズ」

六月十一日(金)に増穂小学校では二年生九四人が麦刈りをしました。児童は昨年十一月、一年生の時に麦をまき、苗を強くするために麦踏みをして大切に育ててきました。収穫の様子をお伝えします。

青空の下、麦畑に集合



JA山梨みらいから小林大軌さんを講師に、時間差でクラス毎に行いました。畑は学校のすぐ前にあり、それぞれの学年でサツマイモやゴーヤなども育てています。元気に挨拶して麦刈りがはじまりました。小林さんが「がんばっ

て麦まきをして、小さかった麦がこんなに大きくなったのはすごいこと」と話しました。それから、昔使っていた脱穀機「千歯扱き(せんばこき)」と現在の脱穀機について説明してもらいました。現在のものは千歯扱きが中に入っていて、それをモーターで回すしくみだということです。小林さんが千歯扱きで脱穀し、児童はその様子を見学しました。小さな樽の周りにいくつもむき出しの刃があり、ペダルを踏んで勢いよくそれを回して刃の上に麦の穂を

ことぶき勸学院便り

バラの花殻摘みボランティア

五月二十五日(火)に富士川クラフトパークでことぶき勸学院一年生教室を行いました。今回は来年良い花を咲かせるためにバラの花殻(咲き終わった花)を摘むボランティア活動でした。生徒の一分間スピーチで、バラは本数によって花言葉が変わるとい話を聞いた後山梨カーテンの方から、花



に一番近い五枚葉の上を切ることや、薔がなくても切ってしまう方がよいことを教わりました。勸学院生には日頃からこの活動をしている人も多く、スタッフ用のポロシャツで手際よく働いていました。自主的に参加した二年生が十六人もいて、初めての人も「楽しかったのでまた参加したい」と言っていました。

増穂小学校2年生 元気に麦刈り体験



小林さんの千歯扱き実演 穂が勢いよく飛びました



置くと、あっという間に穂先だけが落ちる仕組みです。また、カマの使い方の説明では、簡単に切れるように見えても、実は包丁とちがって刃がギザギザしているの、このぎりのように引いて切るといいことも教わりました。

麦刈り開始

子ども達は六人ずつ並んで、麦を刈りました。小さな手に大きなカマを握って教わったとおり、安全に刈ることができました。自分の刈った麦の束をもって、



↑刈った麦を披露



→それぞれ自分で刈った麦を、慎重に脱穀機に入れました

現在の脱穀機に麦を入れました。全員が作業を終えたところで再び整列し、担任の先生が感想を聞きました。子ども達は「元氣よく手を挙げ「楽しかった」「五十回やりたい」

カマの扱いも なかなか上手😊



「(千歯扱きは)見た目はあまりいい機械じゃないけど、思ったよりすごかった」「(現在の機械に)麦を入れると(わらと麦に)分けられていてすごい」「手を入れたら切れちゃいそう」など、素直に感じたことを発言していました。

麦まき〜麦刈りによせて

麦をまいたり、刈ったりするのには時期を守ることが大

切です。せっかく育てても、スズメに食べられてしまうと子ども達がかっかりしてしまうので、対策として、担任の先生達が支柱を立てネットを張りました。また、刈るときには乾燥している必要があります。小林さんは「麦を大事に育てそこに関わることで、子ども達には農業の素晴らしさ、小さなものを大きく育てることを楽しんでもらいたい。それが心に響いて、将来につながり、富士川町の農業を支えるような興味の種をまければ嬉しい。またこの行事を通して、子どもが目を輝かせて見てくれることが大変嬉しく、子ども達には生き物である植物(作物)が食卓に上がる前の畑の状態、生き物としての全体を見てもらいたい。そして子どもが純粋に興味を示してくれる姿を見ると、育てる喜びを再認識できる」と言っていました。先生達の協力と、教わる子ども達、講師の相互作用によって、得ることの大きい行事でした。

「たなぼた空襲」と呼ばれた空襲

今年も甲府空襲の日がやってきました。ことぶき勸学院生の入倉武津子さんは、辛い気持ちをこらえながら話してくださいました。

一九四五年七月六日の夜のこぼれ



入倉さんが倒れていた場所
西中 → 荒川
入倉さんの家
旧穴切小
手書きの当時の地図

入倉さんは当時小学二年生で、現甲府市役所西庁舎である旧穴切小学校のすぐ近くに住んでいました。当日の午後十一時二三分、人々が寝静まった頃、爆撃が始まりました。お父さんの「逃げろ」という叫び声で入倉さんは教科書や文房具、さみしいときに話しかけていた漫画の『りぼんのうさちゃん』といった大事なものをランドセルに入れ、家族と逃げました。入倉さんはお母さんと手を繋ぎたかったのに、お母さんの手は妹と荷物にふさがれ、その荷物にしがみついたかありませんでした。その時「お母さんの手が三本欲しい！」と強く思ったそうです。

逃げる途中で家族とはぐれてしまっ人にもまれ、つかんでいた荷物を

離してしまい、入倉さんは田んぼ

(当時は甲府中心地にも田んぼがあった)に落ちてしまいました。近所の米店のお兄さんが引っ張り上げてくれましたが、そのお兄さんは途中で消えてしまいましたどこにもいなくなってしまいました(後に入倉さんは山梨平和ミュージアムで甲府空襲での戦没者名から彼の名を探しましたが、見つかりませんでした)。どうにか田んぼから出ましたが、靴を片方落としてしまい、「なくしたらお母さんに怒られちゃう」と必死で探しました。ところが「そんなことし

で、泣きながらさまよっていましたが、荒川のほとりで気を失ってしまいました。

お母さんに会いたい!!



夜が明け目が覚めると、お母さんに会いたい気持ちでいっぱいになり勇気が湧いてきたので歩き始めました。人々は焼けただれ皮膚が垂れ下がり、死体の蒸れた臭いや髪の毛の焼けた臭いがとても気持ち悪く、息をするのも大変で、吐きな

甲府空襲体験談

「苦しい、でも伝えなければ」

ことぶき勸学院峡南教室

富士川町在住

入倉武津子さん



ていないで逃げろ!!」という誰かのどなり声が聞こえ、片方裸足のまま荒川の方に逃げました。逃げ惑う人々は燃えながら死んでいき、あちこちで赤い炎が燃え上がり、焼夷弾(しょういだん)は光って落ち、その様子はまるで地獄絵図でした。荒川は爆撃の火でお湯になっていて、そこにいる人たちはトタンをかぶっています。焼夷弾が雨のように降ってきた、まるで流れ星のようでした。入倉さんは一人ぼっちで心細かったの

がら歩きました。髪も眉もチリチリに焦っていました。背負っていたランドセルに守られ助かりました。家も道も焼き尽くされて、知っている町並みとは大きく変わっていました。焼けた町は熱く、裸足の足を守るためにズボンの裾を踏みながら家を目指しました。消防団が鋤簾(じょれん)で、死体をかき集めていました。穴切小の校舎がころうじて残ったおかげで、その裏の入倉さんのお母さんに会えたときには、抱きついて大泣きました。

終戦へ

その当時、日本は竹槍とバケツリシで勝てると思っていました。実際は無防備でやられっぱなしで、甲府空襲の一ヶ月後には原爆投下、そして終戦を迎えました。

空襲後の生活と表彰

貧しく食べるものがありませんでしたが、子ども達はたくましく、燃えてしまった食糧事務所の缶詰で食べられそうなものを拾ってきたり、空き缶で遊び道具を作ったり、苦しい時代を乗り切りました。入倉さんはひなまつりで使ったびんにおかゆを入れて、自分よりも大変な状況の友だちにあげたこともあったそうです。そのことで甲府市善行賞第一号として校長先生に表彰されました。



入倉さんよ

戦争はダメだとわかってはいるのに、現在でも、世界中で絶えることがありません。宇宙に飛び出して、青くて美しい地球を見ればやめるのかもしれない。投票して選んだ政治家には戦争を止めて欲しいと思います。どんなに辛いことがあっても戦争の時を思えば生きていけます(そのくらい辛い体験、今は平和)。七月になると戦争を思い出して苦しいですが、以前は小学校で体験を話したり、NHKに投稿したりしました。誰かが伝えなければならぬと思うし、伝えたいと思っていますからです。

砂防を知って、土砂災害から身を守ろう！

峡南建設事務所が身延清稜小・栄小で「砂防移動教室」開催

砂防移動教室とは

昭和五十七年七月の豪雨被害以降、六月は土砂災害防止月間となっています。砂防移動教室はその取組の一つで、峡南建設事務所河川砂防管理課職員が講師として、土砂災害が起こる仕組みや、砂防の仕事や五年生に説明しています。自然の恐ろしさと同時に楽しさを伝えていくことにより、自然を遠ざけないことや守ることを伝え、子ども達の自然との付き合い方につなげていきます。



↑講師の方々



←元気に挙手

身延清稜小にて

六月九日(水)五、六校時に開催しました。砂防管理課より四名が講師として訪れました。学級会長の「たくさん勉強したい」という挨拶があり、黒板には、本時のめあて「自分事として土砂災害について考えよう」と書かれています。最初に小学生向けに作られたカワセミのキャラクターが登場する土砂災害に関する動画を教室で鑑賞し、砂防とは土砂災害を防ぐこと、砂防ダムの役割と種類、土砂の流出を抑えるために植樹する山腹工など基本的なことを学びま

模型の説明を聞いています



て押し流されてしまいましたが、そこで講師が砂防ダムの透過型(柵

いよいよ実験開始!!

次に図工室に移動して、斜面に川が流れている模型に、水の代わりにたくさんビー玉を流す土石流実験をしました。最初はダムがない状態で、上流から流しました。すると大きな音がして下流の橋、家、車の模型が全

夢中で取り組む子ども達→



て押し流されてしまいましたが、そこで講師が砂防ダムの透過型(柵状のダム)とクローズ型(閉鎖ダム)の模型ををはめると「今度は(ダムが)ありか!!」と元気な声が、またダムのおかげで家も橋も残ったのを確認すると「これがいい!すこい!」

めあて達成

担任の先生が「建設事務所の方が伝えたかったのは何だろう」と投げかけ、グループで話し合いの後、「山梨は山と川が近いので、人の命を奪う土砂災害に気をつける」「ダムは働

きがわかった」「自分たちにもできる対策をしたい」と発言しました。子ども達は「自分事」として捉えていたので、めあてを達成できました。講師は伝えたいことがきちんと伝わって嬉しかったと言っていました。

栄小では

峡南建設事務所身延支所の職員が講師となり七月九日(金)に行う予定です。昨年度までは峡南地域で年一校でしたが、今後は二校で行うことになり、いつ起こるか分からない災害に備えて、県は防災教育に力を入れています。

講座全体を通して

建設事務所の皆さんが人命を守るために、砂防事業やダム建設を行ってくださっていることや、生き物と川の管理、人が安全に暮らすために自然や生き物を犠牲にするのはよくないということ意識して業務に携わっていることがわかりました。土砂災害の防止や被害の軽減の重要性に関心を深め、指示が出たときはもちろん、出なくても危険を感じたらすぐに避難することが大切だということも再認識できました。

土砂災害防災めいえ (児童に配布)



せっぱ詰まってからの避難は危険